平成２７年度　第２回山梨県考古博物館協議会議事録

１　日　時　　平成２７年１１月１１日（水）　午前１０時～

２　場　所　　考古博物館（風土記の丘研修センター）

３　出席者　（敬称略）

（委　員）　谷口一夫、堀内邦満、飯野章、三井久美子、田中倭子、長澤宏昌、齋藤洋子、飯野奈津子、柿島美保子、小林千澄、望月立弥、宮川一男　１２名

（事務局）　萩原館長、駒井副館長、保坂次長、小澤学術文化財課長、村石学芸課長、総務課員３名

４　会議次第

（１）開会
（２）会長あいさつ
（３）議事
（４）その他
（５）閉会

５　会議に付した事案の件名

（１）平成２７年度考古博物館経過事業について
（２）平成２７年度考古博物館予定事業について
（３）その他

６　議事の概要

（委員）
　様々な活動やイベントをしていることがよくわかる。夏休み自由研究プロジェクトは何年前から行っているのか。

（事務局）
　８年前くらい前から行っている。

（委員）
　主体は県立博物館なのか。

（事務局）
　呼びかけなど主な活動は県立博物館が行っている。

（委員）
　考古博物館のブースに来たのが８２人ということだが、何人の職員で対応したのか。

（事務局）
　４人で対応。

（委員）
　このイベントは、子供たちのどういう自由研究をやったら良いかという質問に答えるというものではなく、実際に拓本の取り方などを教えるものなのか。

（事務局）
　体験型のイベントになっている。去年は、実際にイベントに来て遊んでもらうという形をとり、宿題のないような未就学児や小学校低学年の子供も母親と一緒に来て遊べるようになっていた。夏休みの宿題には直接結びつかないということで、県立博物館の方に最初のコンセプトとだいぶずれてしまったことなどの話をしたが、きちんとイベントとして定着しており一定の人が来ているので今から形を変えるのということではなく、実際にイベントで体験していただくことで考古博物館での活動を宣伝する意味もかねる、という方向でやっていきたい。

（委員）
　今後イベントの方針を変えていく可能性もあるのか。

（事務局）
　可能性はある。現在も申し出があれば色々な調べ方を教えたり、実際に遺跡の現地へ行ったり、担当者や関係者に話を聞いたりし、出来上がったものは「わたしたちの研究室」への応募してもらうなど考古博物館の宣伝も含めた活動を実施。

（委員）
　子供達が古代や歴史に興味･関心を持つようなイベントを取り入れていただき感謝している。ただ、自分達だけで考古博物館まで行くことが出来ないという問題点がある。出来れば夏休み中であっても仕事をしている親が多いので、参加のしやすい土日にイベントを開催してもらった方が良いのではないかと思う。
　また、学校の方で考古博物館にて勉強したいという希望があってもなかなか足がなくて難しい。バスを借りるとなると多くの費用がかかるのだが、その場合全て保護者負担となり、保護者の負担をいかに減らすのかが学校側の課題となっている。考古博物館の方でバス借り上げの際に何か補助のようなものがあればもっと気軽に来られると思う。

（事務局）
　毎年無料バスを確保できないのかという意見をいただいている。県立博物館や考古博物館など交通の便の悪い場所を上手く巡回できるようなバスの確保を検討しているがなかなか実現が難しい。これからも根気よく働きかけていきたい。補助も１つの手だと思う。最初の頃なら来館者を確保するために補助をするということも考えられたかもしれないが、現在は市町村ごとでの取り組み方に差があるので県が一律で何かをするということは厳しい状況となっている。予算の関係もありなかなか難しいとは思うが､いただいた意見は持ち帰って検討していきたい。

（委員）
　特別展の時のみ甲府駅から考古博物館まで１日にバスを何本か出したことはあるが、そもそも甲府駅から考古博物館までバスで来る、という事が定着していないため利用する人があまりいなかった。１日１本でも良いので考古博物館の開館時間に合わせてバスを出してはもらえないのか。６０万円確保すれば山交バスが通ってくれる。バス運行のための特別な委員会などを作って積極的に活動していくべきだと思う。

（事務局）
　考古博物館は６５歳以上の観覧料が無料だが、バス代が高いという意見をよく聞く。交通の便がやはり大きな問題。観光行政が活発な他の地域は巡回バスがよく走っているが、山梨県は非常に乏しい。観光名所を巡回するようなバスが必要だと思う。山梨県全体の観光において弱い部分となってしまっている。観光行政と一体となってやっていきたい。

（委員）
　小中学校の統合に伴い多くのスクールバスを各市町村で持っている。登下校以外の時間に市町村を乗り越えた形で運用できないか。スクールバスの利用は非常に有効だと思う。

（委員）
　「縄文の美」展がとても素晴らしかった。パンフレットも素晴らしかったし、国宝の火焔型土器と山梨の土器が一堂に並ぶという内容も高度で密度があった。視点を変えた展示の仕方も非常に良かった。また、岡島ロイヤル会館のシンポジウムもそれぞれの専門の先生方の話が本当にわかりやすかった。たくさんの人が参加したが皆さん満足して帰られたと思う。中道交流センターで行われた縄文鼎談は少し難しかったが、わからないながらも写真家の方達の思いなど、とても勉強になった。中道交流センターは交通の便も良く、大いに活用していきたい建物だが入口に案内板などの看板を出す方がさらにわかりやすくて入りやすくなる。考古博物館で特別展開催が行われる時に、常設展を奥の方に引っ越してという作業が大変なご苦労だと思う。特別展はしっかりと確保しながら同時に常設展も開催可能な建物になれば良いと思う。

（委員）
　中道交流センターの会議室をよく利用するが、他の方にも看板の事について言われたことがある。何かを開催している時に大きな看板がないとどこを入って行ったら良いのかよくわからない。大きいイベントがある時にはわかりやすく看板を設置すべきと支所の方にも働きかける必要がある。「縄文の美」展は１度しか行かなかったが、とても良い企画だし、考古博物館の周りの紅葉も美しいので他の人にも勧めていた。秋の紅葉とマッチした企画があれば良いと思う。エントランスホールで考古学と関係ない戦争体験についての企画を行ったということだが、このような企画はずっと前から行っているのか。

（事務局）
　戦争体験についての企画は今回が初めて。特別展ではなく企画展の「近代の山梨の遺跡と遺物」の中に戦争というテーマがあった。

（委員）
　考古博物館のイメージと違ったのでずっと前から行われているのか、それとも今回からなのかを聞きたかった。考古学に関係のないテーマでも、今まで考古博物館を知らなかった人を呼び込むきっかけになるかもしれないので良いと思う。どんなイベントをやっているのかわからないことも多いのでもっと宣伝をしたら良いと思う。

（事務局）
　従来は古い時代の遺跡が展示の対象だったが、最近は中世～江戸時代の近世、さらには明治時代以降の遺跡も考古学の対象となっている。その関係で戦争に関するものの展示も県内外で増えてきている。考古学の展示も幅が広くなっている状況。今後もさらに戦争関係の展示が増えていくのではないか。今回の「縄文の美」展に関して、従来は縄文土器を考古資料として眺

め、検討してきたが、今回は特に美や芸術の面に注目しようということで、説明文は少なめにし、「美」を楽しんでもらえるよう美術館のような形で展示をした。今回の特別展は評判も良く、一度来たお客さんが宣伝をしてくださり口コミで広がって来場者も増えていった。縄文土器は山梨県・長野県では普通に展示しているが、一度に多くの土器を集めたことで色々な土器がいっぺんに鑑賞できると人気になったのではないか。紅葉はロケーションがとても良いのでもう少し売りにしていきたい。春の新緑や多くの古墳なども含めてアピールし、さらなる集客を図りたい。また、県外の小中学校などからもバスで研修にやってくるが、野外活動もできるからこそ考古博物館が見学の対象に選ばれるのだと思う。さらに力を入れていきたい。

交流センターは初めて使ったが良かった。ただ、どこから入るのかわかりづらかったので交流センターの方でも看板を立てていただけるとありがたい。また、建物自体の入口もいくつもあり、中に入ってからも会場の場所がわかりづらかった。まだ建設して間もない建物なのでこれから工夫していきたい。

（委員）

戦争体験の展示を孫と一緒に見させてもらった。良い企画だったと思う。先日の日曜日にNHK スペシャルでちょうど縄文土器の企画をやっていた。縄文時代が１万年も続いたことは驚異だと言われていた。火焔土器が素晴らしかった。NHK スペシャルを見た人にとって「縄文の美」展はぴったりだったと思う。開催期間も残りわずかだが、NHK スペシャルと併せて PR をしていけばさらに多くの皆さんが行ってみようという気持ちになるのではないか。また、青森県の三内丸山遺跡が世界遺産登録に向けて活動している。新潟・長野・山梨も縄文土器の宝庫と言われているので、世界遺産の登録に向けて取り組んではどうか。日本の考古学の素晴らしさをもっと世界に伝えるような活動をしていってほしい。

（事務局）

番組に出演していた小林達雄さんが昨日来館した。縄文土器は１万年以上続いていた土器であり、世界最古の土器であり、最初の頃から優れたものが作られていた。特に縄文時代の中期は山梨・長野・新潟が中心地帯であったので、非常に造形美に優れた土器がたくさん出土する。その中でも山梨県が１番大きくバラエティーに富んでいた。山梨県にはすごい土器がたくさんあるのだが、意外にもそのすごさを知らないのが山梨県民。そういう意味で今回の狙いは“再認識してもらうこと”。多くの方に来ていただければ、山梨の縄文土器は世界に誇れるということがわかってもらえるのではないか。

（委員）

地道な取り組みを色々やってらっしゃることに敬意を表したい。まだ２３日まで開催しているということなので、素晴らしさを知らない県内の人に向けて特集など組んでいけたらと思う。

（委員）

初めて参加させていただいたが、非常に盛りだくさんで多くのイベントが計画・実施され、多くの観覧者が来ていると思った。学校関係の利用状況を見ると同じような数で推移しているが、具体的にはどのような状況なのか。いつも同じような学校が利用しているのか、それとどういう目的なのか、こちらで内容を指定しているのか教えてほしい。

（事務局）

学校で多いのは東京の西側の学校。毎年来ている。清里などの保養施設で林間学校を行った帰りに来て体験をし、考古博物館の中も見学して帰る、という形。

（委員）
　東京の中学校の中にも、林間学校で１泊し、もろこし狩りやじゃがいも掘りなどの農業体験ツアーに参加し、その後考古博物館で見学をしてそのまま中央道で帰るという行事を３年連続で行っている学校がある。その時に館内でお弁当でも食べられれば、という話になったが結局外で食べたようだ。このように東京の中学校でも農業体験と組み合わせて考古博物館を利用している。

（委員）
　リピーターの学校が多いのか。

（委員）
　多い。

（委員）
　県内だと、小学６年生が社会科見学として歴史を勉強するために来る。子供達にとっても良い経験になっていると思う。

（委員）
　県内の学校は社会科見学が多いのか。

（事務局）
　南アルプス市などは上手くバスを利用して来る。しかも教育委員会の文化財主事の担当が付いてきて、子供達と一緒に回って自分達で説明をしてくれるので、非常に機能性が高く多くの学校が利用している。東側の学校はバスの便などの関係で近い割に来ない。遠い学校になるとバスをせっかく借りたのだから少し遠くまで、ということで来てくれる。

（委員）
　様々なイベントのアピールを学校訪問するなどして行っているのか。

（事務局）
　チラシやポスターを常時配っている。「縄文王国」の時は補助金があったので県内全ての小学生に配った。学校の先生から企画のことを伝えていただくと、より浸透する。

（委員）
　素晴らしい企画展がたくさんあるので PR 活動をして多くの参加者に来てもらえるようにしてもらえたらどうか。

（事務局）
　小学生・中学生まではよく来るが、高校生・大学生となるとなかなか難しい。

（委員）
　地元の子供達が縄文土器の素晴らしさを知って、県外の大学に出て周りに宣伝をして帰ってくる、そんな教育をしていきたい。

（委員）
　小学校の場合だと同じ学校が繰り返し来ているのではないか。保護者に負担を強いられるものは４月の保護者会で承認を経なければならない。今年のイベントをその年に伝えても来られないということがあるが、来年のイベントを広報することで予算の中に組み込みやすくなる。早めのアピールを検討してほしい。

（事務局）
　地元の人への周知をしていくのが我々の課題。身近な地域である甲府・笛吹の小中学生があまり来ないので働きかけが必要。

（委員）
　南アルプス市は大型・中型バスを何台か持っていて、学校の社会科見学などの際は市が協力してくれている。

（委員）
　各市町村には必ず文化財主事がいるのか。

（委員）
　少なくとも１、２人、市町村合併したところなどは４、５人いるが、活発な地域と活発でない地域がある。バスは南アルプス市が最も有効に活用している。各市町村ともバス自体は持っているので上手に使えればと思う。運転士や交通事故を心配して教育委員会がなかなか動いてくれない状況。

（委員）
　活発に動いている・動いていないという差があるのはもったいない。皆さんで連携して運動などしたらどうか。

（委員）
　南アルプス市には文化財課があり、３人の文化財主事が歴史と考古学に力を入れている。生涯学習や学校教育にかなり関わっている。

（事務局）
　北杜市・笛吹市・甲府市なども人数がいるのだからもう少し活発に活動してほしい。全体の底上げを期待したい。

（委員）
　移動博物館はやっていないのか。

（事務局）
　埋蔵文化財センターと仕事の住み分けをしている。考古博物館は施設を持っているのでこちらに来てもらう。埋蔵文化財センターは発掘品の活用が文化庁からの指示で出ているので、学校を訪問し子供達に発掘品を見てもらうなどの出前授業こちらが出向いている。

－　以　上　－